

付録10 ポイント・ポイント接続手順とポイント・マルチポイント接続手順

1. 概要

レイヤ3のポイント・ポイント接続手順とは、着信時のレイヤ3「呼設定」メッセージがポイント・ポイントデータリンク上を転送された時の手順をいいます。これに対してポイント・マルチポイント接続手順とは、着信時のレイヤ3「呼設定」メッセージが放送形式データリンク上を転送された時の手順をいいます。

2. 利用条件

2.1 レイヤ2の利用条件

レイヤ3のポイント・ポイント接続手順を用いるインタフェースについては、固定データリンクコネクション（注）を提供し、このデータリンクのみを使用します。これに対して、レイヤ3のポイント・マルチポイント接続手順を用いるインタフェースについては、固定データリンクコネクションを提供しません。

レイヤ3のポイント・ポイント接続手順を用いるインタフェースで固定データリンクコネクションを設定していないユーザへの着信があった場合、発信側ユーザへは着信側の故障として通知します。

（注） 固定データリンクコネクションが適用されるインタフェースとは、レイヤ3の呼の有無にかかわらず、レイヤ2のデータリンクコネクション（及びレイヤ1）が設定されていることを前提とするインタフェースのことをいいます。

固定データリンクコネクションが適用されるインタフェースでは、着信時呼設定メッセージは、Iフレームで送られ、それ以外のインタフェースでは、着信時呼設定メッセージはUIフレームで送られます。

2.2 動作手順

- (1) 始業時、TEの電源ONによってレイヤ1は自動的に起動される。
- (2) 固定データリンクコネクションの場合、呼設定メッセージは、DL-データ要求プリミティブを用いてレイヤ2に送達されます。
- (3) レイヤ3は、呼設定時にレイヤ2に対し、DL-設定要求プリミティブを要求する必要はありません。
- (4) 固定データリンクコネクションの場合、レイヤ3は呼の終了時にもレイヤ2に対し、DL-解放要求プリミティブを要求しません。

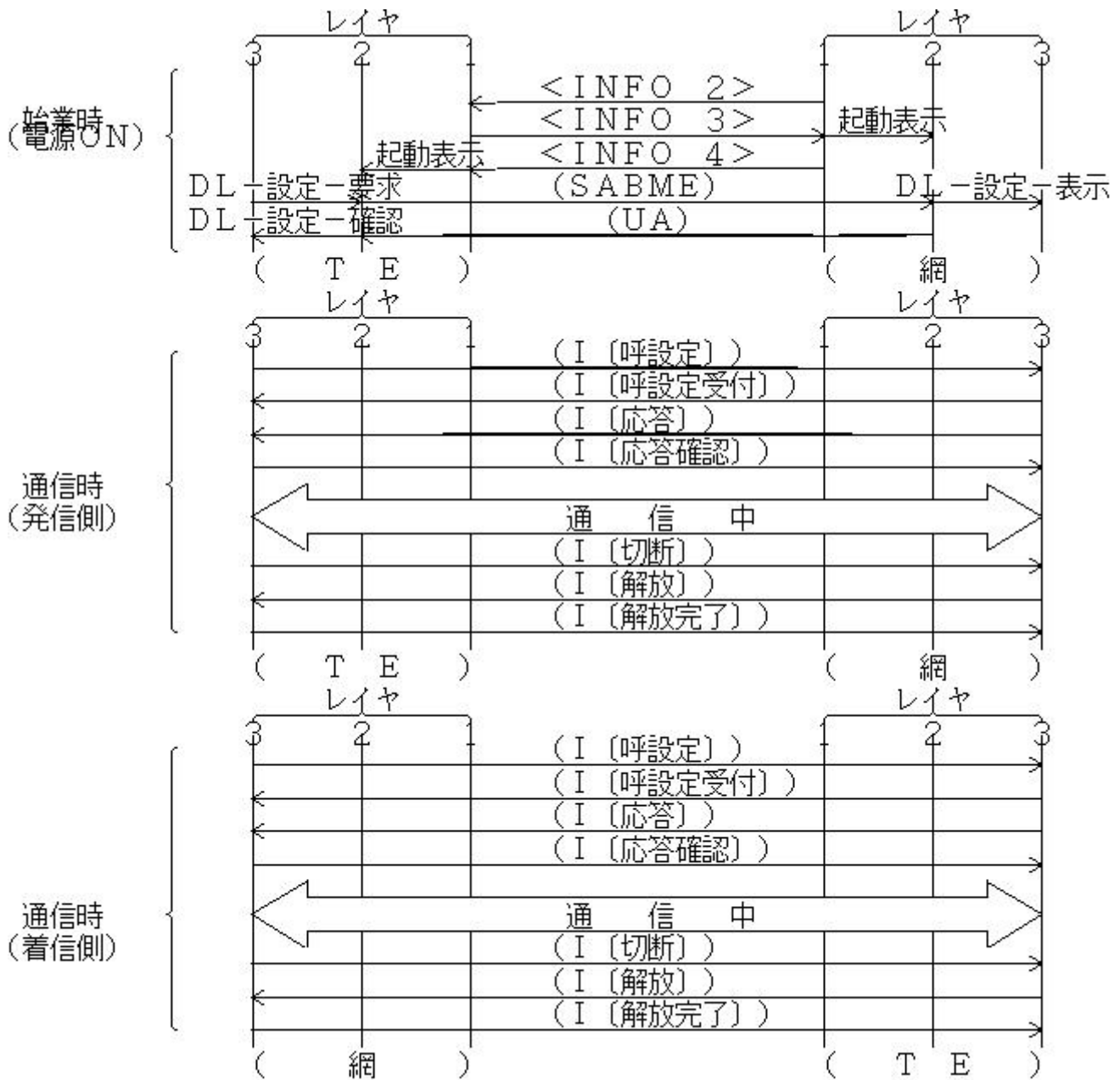
3. レイヤ2とレイヤ3の相互動作に関する条件

ポイント・マルチポイント接続手順では、端末はレイヤ3の呼の終了後、レイヤ2に対してDL-解放要求プリミティブによりレイヤ2を解放することができます（付図2及び付図3参照）。

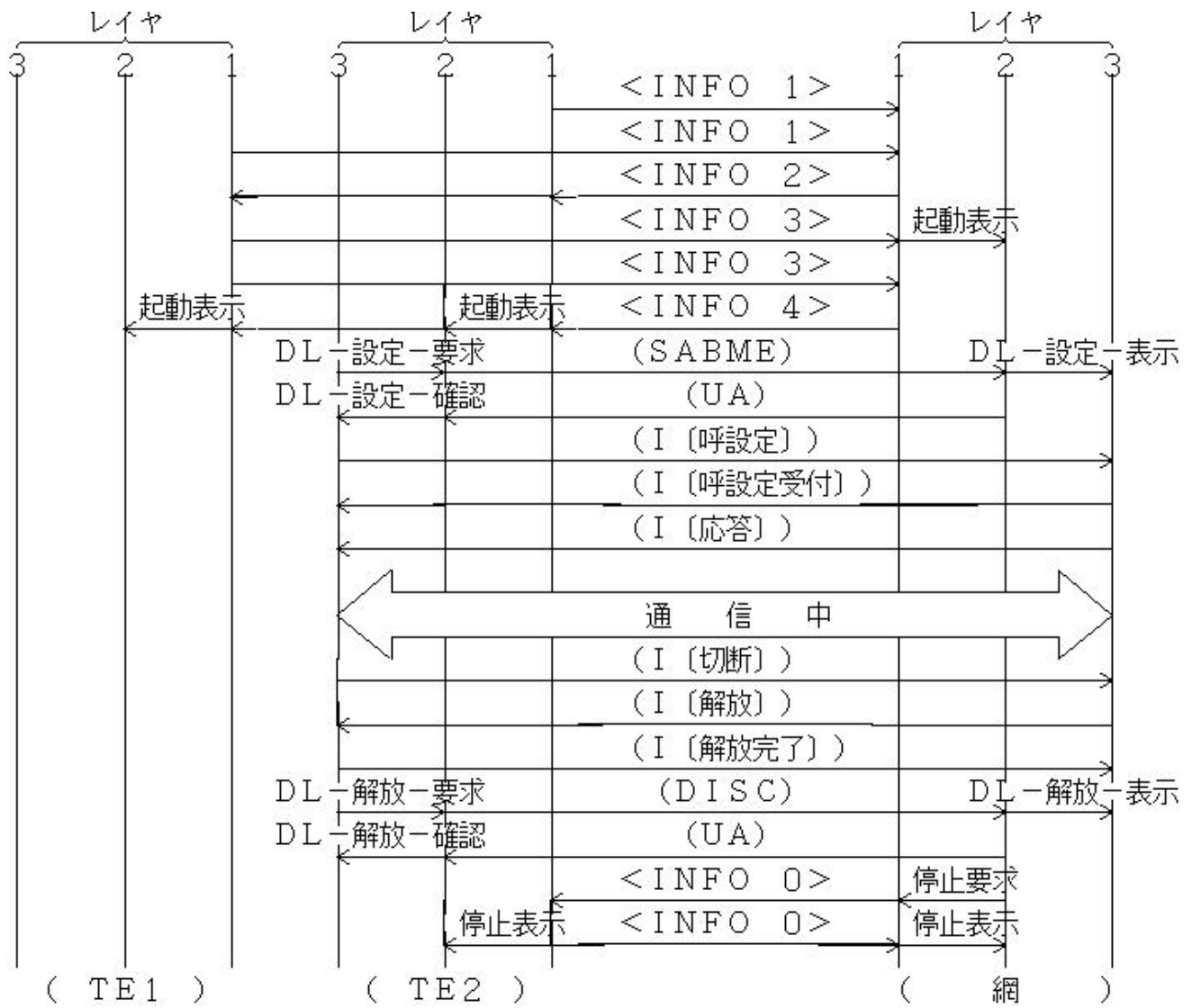
この場合、端末がレイヤ3の「解放完了」メッセージ送信後、もしくは、網からの「解放完了」メッセージの受信後、適当なタイミング（1秒程度）を取ることなしに、DL-解放要求プリミティブによりレイヤ2解放を要求し、レイヤ2がDISCメッセージを網に送信した場合、網からレイヤ2リンクが再設定される場合があります。この場合は再度レイヤ2の解放を試みて下さい。

4. 各レイヤの動作

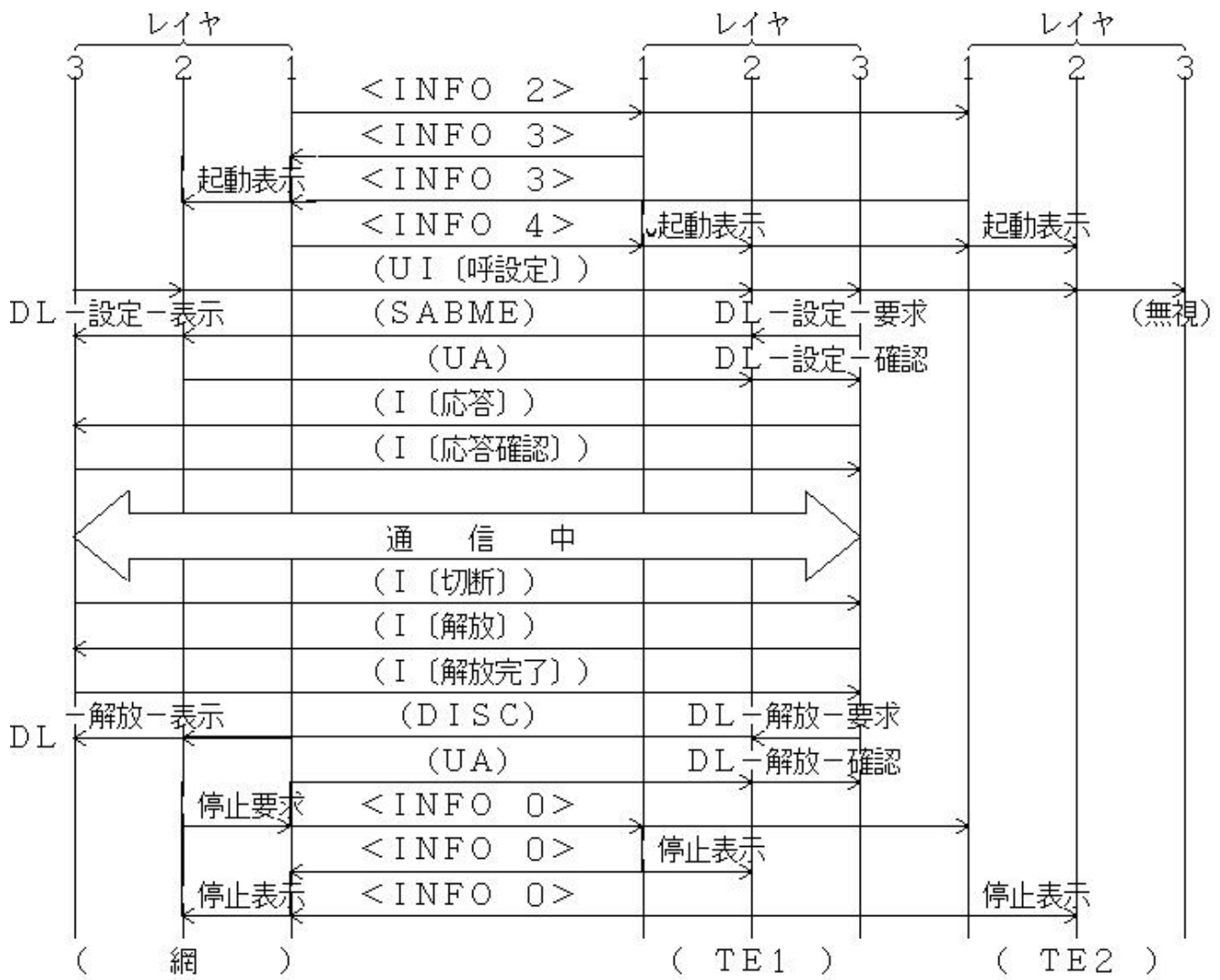
ポイント・ポイント接続手順とポイント・マルチポイント接続手順における各レイヤの相互動作の一例を付図1～3に示します。



付図1 ポイント・ポイント接続手順の時の各レイヤの相互動作例



付図2 ポイント・マルチポイント接続手順の時の各レイヤの相互動作例（発信時）



付図3 ポイント・マルチポイント接続手順の時の各レイヤの相互動作例 (着信時)